

最近の中国農業・農村・食料の動向

―日中韓シンポジウム等を通じて―

農林水産政策研究所長 小西 孝蔵



北京市郊外のモデル農村の風景
(右側に並ぶのは揚子江から北京へ水を運ぶため黄河の下をくぐらせるパイプライン用の建築資材)

この度、第5回北東アジア農業政策研究フォーラム等の国際会議に参加し、中国政府関係研究者と意見交換を行い、最近の中国の農業、農村、食料問題について有意義な知見を得られたのでご紹介したい。

1 農業・農村問題

農村の高齢化、都市との格差問題等が深刻であり、これに対する十分な政策がまだ実行されていない現状で、農村問題が最も大きな問題となっている。

農村の高齢化の進行は、農業人口の減少により持続的に農業生産に影響を及ぼすだけでなく、年金制度と医療保険制度の未整備により、今後の農村の維持そのものに大きな陰を落としている。

「高齢化」

● 中国の農村では、現在、都市への移住と出稼ぎ、さらには出生率の低下により高齢化が進行しており、40歳以下の農業の担い手が非常に少ない地域や、老人と子供のみが残っている青・壮年の働き手のいない村が大幅に増加している。

「都市との収入格差」

● 都市と農村の収入格差は、拡大傾向にある（1985年には1・86倍だったのが2005年においては3・22倍）。また、農村内部での格差も拡大する傾向にあり、農家を取入れレベルで5段階に分けた最低収入層と最高収入層との純収入額の格差は、2002年の6・9倍から

2005年の7・3倍へと拡大している（中国統計年鑑2006）。

「農業補助金、金融等農業政策」

● 第16期人民代表大会後、農業支援策が打ち出され、殊に2004年以降、



北京市最大の青果物卸売市場・「新発地卸売市場」
（農家の庭先でネギを買い集めてきた業者がトラックに積載したまま客を待っている風景）

農家に対する補助金（食糧生産直接補助、優良種子補助、農機購入補助、農業資材補助）が支払われるようになったが、金額的には十分な水準になっていない（約310億元、約5千億円）。

● 農業保護の水準については、PSEでみても数%で、日本・韓国の10分の1以下であり、コメ・トウモロコシ・小麦3作物に対する平均の補助額は、種子代の一部でしかない状況である。

● 中国における農村金融は、農村信用社が農家に直接融資を行うことになっているが、制度的な問題に加え、農村信用合作社が制度改革の中で不良債権の処理に追われているという実態もあり、農家が融資を受けることは非常に難しいとされている（農家の融資全体のうち農村信用社は2割程度を占めているに過ぎず、残りの8割は親類縁者または高利貸しからの借金で占められていると言われる）。

● 農産物保険は現在、各地で小規模な試行的実施が試みられているが、政策的制度としてまだ確立していない。

● 農産物流通の分野でも、農業者の組織化が遅れているため、卸売市場での販売において極めて不利な立場におかれている（視察先の北京一の青果物卸売市場では、産地仲買人とバイヤーの相対取引がほとんどである）。

2 食糧需給とバイオエタノール

（農業経済発展研究所研究員との意見交換を含む。）

バイオエタノール生産はバイオエタノール等加工需要が高まる中で、トウモロコシ由来による生産を規制し、キャッサバ等からの生産を拡大する方針に転換してきている。長期的には、畜産需要等の拡大により、飼料穀物の輸入あるいは、畜産物の輸入かの選択を迫られ、世界貿易に大きな影響が及ぶ可能性がある。

また、中長期的には、農地の住宅・工業用転用需要の大幅な増加が食料生産の制約要因となっている点、また、華北地方を中心に、水資源の制約が農業生産に及ぼす影響が顕在化している点も注視する必要がある。

「バイオエタノールと トウモロコシ需給」

● 現行の認可されている4つのバイオエタノール生産工場は、政府からの補助金で運営されており、補助が打ち切られれば生産の拡大はできな



北京郊外「韓村河鎮」の幹線道路の様子
(路上左側でトウモロコシが乾されている)

い状況にある。このため、政府の意向を無視して生産することはできない。ただ、民間の非認可企業については、原油の国際価格の上昇に伴う利潤を見越し、生産することが予想されるので、今後の民間企業の動向は、原油価格の動向次第ということ

が言える。

● トウモロコシの国内生産量は約1億4千万トンであり、そのうち、飼料用が約7割、加工用が2割となっている。また加工用のうち、バイオエタノール用は約250万トン（2%程度）である。

● 今後のトウモロコシの需給見通しについては、価格が上昇している中で、需要・生産ともに増加するが、需要の伸び（畜産需要、加工需要）が供給を上回り、加工能力の向上により、将来的には大量の輸入となる可能性がある。中国のトウモロコシ市場は、国際貿易市場に大きな影響を与えつつあるといえる。

● トウモロコシの生産については、耕地の制約等から、播種面積をこれ以上大きく伸ばすことは無理であり、また、GMO品種は単収そのものを増加させるものではなく、現在商品化への見通しもないことから、大幅に単収を向上させることは技術的にも困難である。このため、今後、中国はトウモロコシの生産を大きく拡大させることは難しいといえる。

他方、米国は自国でトウモロコシを加工してエタノールを作るようになるため、今後は輸出余力が減少する。米国の他に誰が中国にトウモロコシを大量に供給できるか、供給余力がなければ、中国は輸入したくても輸入できないということになりかねないという見方がある。将来的には、中国はトウモロコシで輸入するのか、肉で輸入するかという選択に迫られる可能性が高い。

● すでに中国の豚肉価格は500グラム当たり2ドルにまで上昇している。最近、中国の豚肉価格が上昇した原因は、①トウモロコシ価格の上昇、②豚の疫病の発生、③農村の労働力不足の3つである。7月に米国から12万トンの豚肉を緊急輸入することに決定したが、すでに2万トンは輸入されている。

「小麦の需給」

● 小麦については、華北地方が小麦生産の中心である。当地方ではおおむねトウモロコシと輪作されているため、面積は大きく変わっていない。消費も生産も安定した状態にあるといつてよい。小麦の生産が安定して

いる理由の1つに、小麦では機械化がかなり進展していることも大きく影響している。農民が出稼ぎに出ても、機械による作業委託が可能であり、機械収穫隊が何百キロも南から北へ移動しながら、収穫していく仕組みができています。

「土地・水資源」

● 中長期的に見ると、農地の住宅・工業用転用需要の大幅な増大（20〜30年後には500万ヘクタールを上回るとの見通し）が食料生産の制約要因になっている。

● 中国の水資源については、最近、華北平原の水不足が深刻化しており、今年、東北では大規模な旱魃が発生した。西北は昔から水が不足している。今年のトウモロコシの生産量は、播種面積が増えたが、生産量は昨年と同じレベルとなった。これは旱魃の影響である。トウモロコシ生産量が全国一の吉林省も今年は旱魃のためにやや減産した。今年水が不足していないと言われている南の広東省も、2ヵ月間に及ぶ旱魃が発生した。

● 一般的に、水の利用は工業がまず優先されている。次に農業では収益性の高い経済作物が優先され、食糧作物は後回しになっている。また、水汚染の問題も深刻であり、主要河川や小河川の水質が汚染されている。これは工業排水が原因である。また、

自然汚染あるいは養殖・農業による汚染も指摘されている。

● さらに農家が井戸や河から水を取ると、水をかける際に蒸発してしまう等、水の浪費、非効率的な水利用の問題もある。各農家の過剰な井戸開

発が進んでいる。特に、華北ではこれが顕在化して、井戸の水位が低下している。



北京市郊外のモデル農村の風景